

復刻版

琉大文学

全5巻・付録1・別冊1

発行 琉球大学文芸部（琉大文藝クラブ） 1953年～1978年

体裁 A5判・上製・総2、532頁

付録 『前衛地帯』創刊号（1955年12月）

『沖縄文学』創刊号（1956年6月）・第1巻第2号（1957年11月）

『サチユリコン』第1巻第2号（1957年7月）〔未定 創刊号・第1巻第3号〕

解説・総目次・索引（分売価格1、000円＋税） ISBN 978-4-8350-7630-0

別冊 我部 聖（沖縄大学法経学部講師）

推薦

小森陽一（東京大学大学院総合文化研究科教授）

新城郁夫（琉球大学法文学部教授）

仲程昌徳（琉球大学元教員）

目取真俊（小説家）

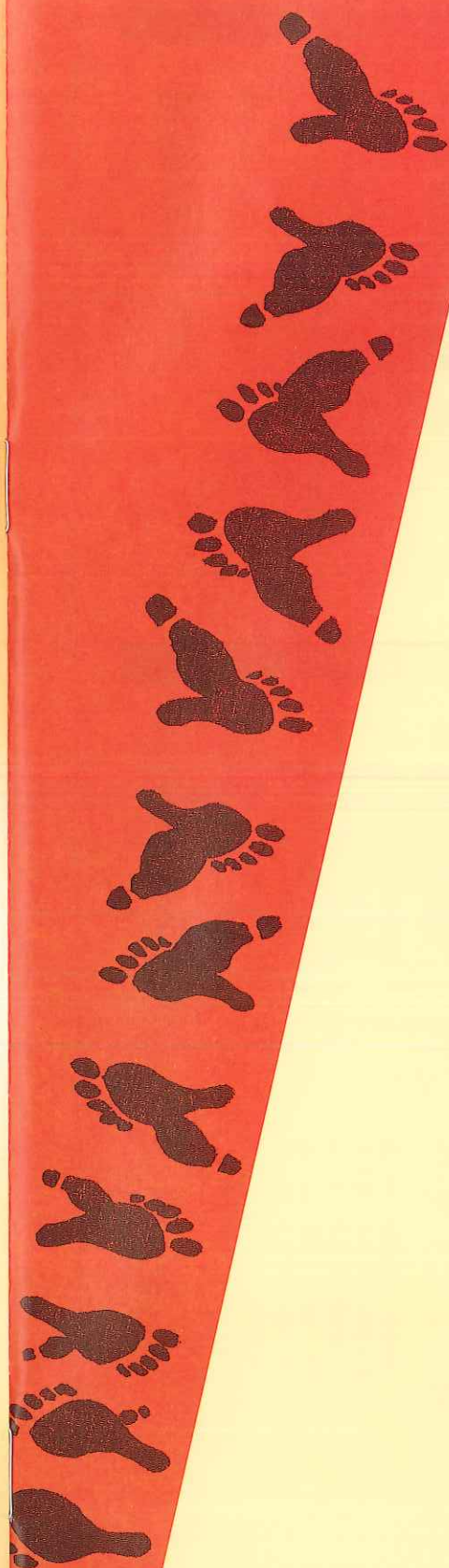
揃定価 本体96、000円＋税

配本 第1回配本（第1巻～第3巻） 48、000円＋税／2014年4月刊行

ISBN 978-4-8350-7621-8

第2回配本（第4巻・第5巻・付録1・別冊1） 48、000円＋税／2014年8月刊行

ISBN 978-4-8350-7625-6



不二出版

〒113-0023
東京都文京区向丘1-2-12
電話03-3812-4433
ファクシミリ03-3812-4464
振替001600294084

2014/4

表示価格はすべて税別

1953年～1978年

琉球大学文芸部（琉大文藝クラブ）

琉大文学

一九五二年四月二八日、日本の「独立」以降も、米国の占領下に沖縄は置かれ続けた。決定づけられて生きる、その条件に否を突き付け、自らを生きようとした学生たち。

戦後文化運動雑誌叢書 12

全5巻・付録1・別冊1

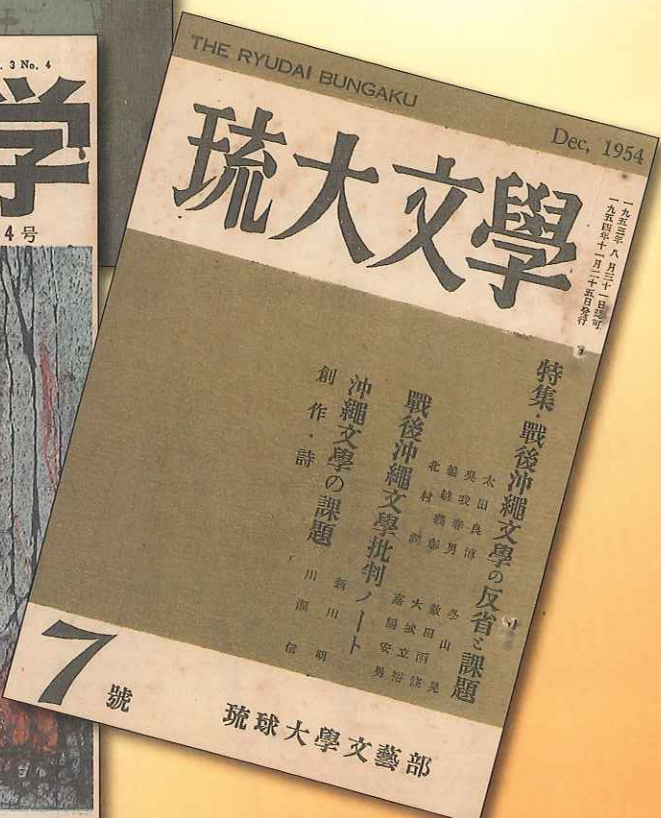
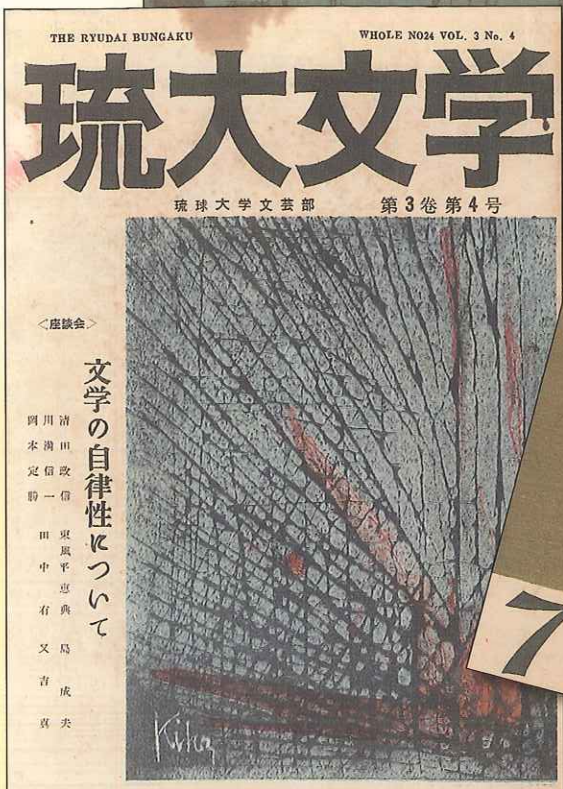
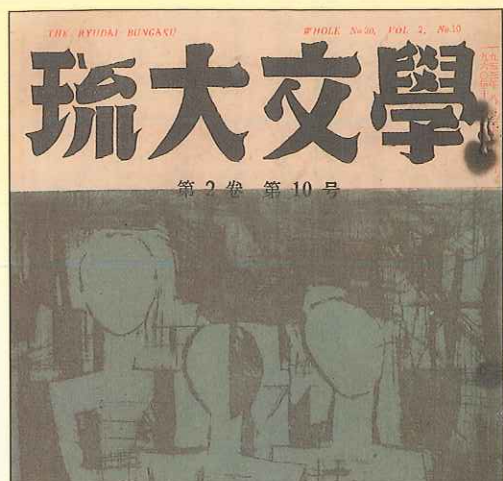
A5判・上製・総2、532頁

●揃定価 96、000円＋税（全2回配本）

第1回配本 2014年4月刊行／第2回配本 2014年8月刊行

●解説 我部 聖（沖縄大学法経学部講師）

●推薦 小森陽一・新城郁夫・仲程昌徳・目取真俊



「いま」を超えるために、状況に参与する

文学表現のあり方を追求した。

沖縄の「戦後」に生まれたこの契機から

現在を照射する！

不二出版

種大文藝クラフ

言論と思想、表現の自由への不屈な魂

小森 陽一

朝鮮戦争の休戦協定が板門店で成立した、一九五三年七月二七日の四日前に『琉大文学』は創刊されている。沖縄を軍事拠点としてアメリカがアジアへの支配を確立しようとする時であった。原爆展を開いたりなどして謹慎処分となった学生の訴えに基づき、この年のメーデーの決議文の一つに「植民地化教育反対、琉球大学学長、副学長の即時罷免」が入っていた。大学側の報復措置で四名の学生が退学処分を受ける「第一次琉大事件」の緊張のただ中のことでもあった。

その一六日後米韓条約仮調印後、アイゼンハワー政権の新政務長官ダレスが東京に立ち寄り、奄美大島の返還と引き換えに、三〇万人以上の再軍備を要求し、沖縄の無期限保有を明確にしたのであった。

『琉大文学』は岡本恵徳、川満信一、新川明、儀間進、伊禮孝、清田政信、中里友豪といった、代表的な戦後沖縄の文学者を生み出している。この時期の沖縄における、言論と出版、集会や示威行動の自由を求める民衆の運動と『琉大文学』は深く結びついていた。

米軍占領と基地に反対する「島ぐるみ闘争」が行われていた一九五六年、『琉大文学』第一号が、大学の「学生準則」に定められた「事前検閲」に従わなかったことを理由に発売禁止即回収という停刊処分を受ける。検閲体制と対峙しつづける文学表現の場。

八月一七日、他の三名の学生とともに『琉大文学』同人三名が退学、一名が停学処分を受けるという「第二次琉大事件」が起こる。大学当局のつけた理由は「反米的行動をなした」という不当な対米従属的なものであった。

辺野古への新基地建設阻止の、島ぐるみ運動が行われている現在の沖縄の人々と、心身ともに連帯するために、多くの読者が『琉大文学』の文学的達成を共有していただくことを願う。

(東京大学大学院総合文化研究科教授)



『琉大文学』復刻という事件の現在性

新城 郁夫

『琉大文学』の復刻は、事件である。なぜか。それは、この復刻によって、「戦後」沖縄の思想と文学の根源的な運動の震源を、そこに発見できるからである。しかし、ここで重要なのは、この発見が、「戦後」沖縄という、特殊な状況と過去に限定されることがまったくないという点である。雑誌『琉大文学』のどの号のどのページを開いてみても、そこに刻み込まれた言葉に、私たちは沖縄への植民地主義暴力への根源的にしてしなやかな抵抗の「現在性」を見出すことができる。さらには、軍事覇権を背景とするアメリカの政治的経済的占領体制が、沖縄というツールを介しながら日本という衛星国を持続的に深く規定しつづけている事実を、『琉大文学』を通して知ることができるのである。

周知のように、『琉大文学』に集った表現者たちは、米軍による検閲という無限定にして熾烈な制限の下で表現を模索していった。発行禁止や回収などの具体的暴力のみならず、琉球大学の内外に潜むスパイという植民地コロポネーターたちの見えない恐怖とも闘わねばならなかった。この構造的な暴力下で、小説が、詩が、批評が、戯曲が、短歌が、「わけの解らない片輪な言葉遣いや、惨めな文章」(川満信一「この頃おもうこと」、第八号掲載)で書き継がれ、読み継がれた。このとき、書き読む行為は、表現の自由へ向けたほとんど無謀な投企となる。そして、この投企においてこそ、世界性のなかに沖縄が現れるのである。

表現の自由が根底から侵害されていくこの時の今、私たち自身が生き延びていくために学ぶべきは、まずもって、『琉大文学』でなければならぬ。

(琉球大学法文学部教授)



さらなる新しい一歩へ

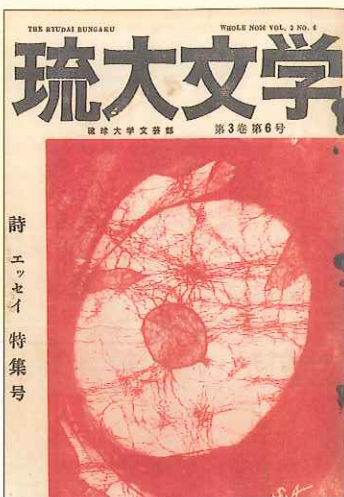
仲程 昌徳

個人誌「カオスの貌」を刊行している川満信一、同人誌「EKE」を束ねている中里友豪、「花ゆうな」を主宰している比嘉美智子、沖縄エッセイスト・クラブが刊行している合同エッセイ集で健筆をふるっている儀間進、具志堅康子、そして『沖縄の自立と日本』『復帰』40年の問いかけの著者の一人である新川明といった沖縄の文界、論壇を牽引している人々が、かつて『琉大文学』の同人であったということ、さらには沖縄の文学や状況を論じていく鋭い研究者や思想家たちが、一緒に取り上げる岡本恵徳、いれいたかし、清田政信たちが、やはり『琉大文学』の同人であったということを知ればしるほど、『琉大文学』復刊の声に胸が躍るばかりである。

戦後沖縄の文学は、山城正忠の「香扇抄」、太田良博の「黒ダイヤ」といった作品で始まっていく。明治、大正、昭和前期の沖縄の文学を領導した正忠をはじめ山里永吉、新垣美登子といった戦前派に、太田後の大城立裕、船越義彰、嘉陽安男といった戦後派が続き、新旧混在のかたちで沖縄の戦後の文界も幕をあけるが、戦前派、戦後派を一緒に批判の対象として出発したのが他ならぬ『琉大文学』のメンバーたちであった。

『琉大文学』のメンバーの活動を抜きにして沖縄の戦後文学の動向を語ることはできないといつてよいが、彼等のそれぞれの出発を飾った『琉大文学』が、全巻そろって読めるようになることで、沖縄の文学は、さらなる新しい一歩を踏み出していくに違いない。

(琉球大学元教員)



状況と切り結んだ若き表現者たち

目取真 俊

沖縄戦で廃墟と化した首里城跡に琉球大学が開学したのは、一九五〇年のことである。以後、一九八〇年代に西原町のキャンパスに移転するまで、同地を中心に琉大文藝クラブ(のち琉球大学文芸部)の活動が行われ、機関誌として『琉大文学』が発刊された。

私が琉球大学に入学したのは一九七九年で、キャンパス移転のさなかであった。シラケ世代と言われた学生が主流となり、やがてバブル経済の時代を迎えようとするなかで、琉大においても学生運動や文芸活動は衰退していた。しかし、沖縄社会の現実にも踏み込めば、巨大な米軍基地の占拠は続き、反自衛隊・反CTSの闘争を含めて、反戦・反基地運動は変わらずにたたかわれていた。

一九五〇年代から七〇年代初頭の沖縄において琉大の学生たちは、米軍統治下の過酷な政治状況と向き合い、切り結ばねばならなかった。詩や小説、評論などの創作の場においても、それは変わらない。文学の政治利用を峻拒する書き手でも、沖縄の現実と向き合う緊張を放棄することはなかった。

琉大の若い書き手たちは、マルクス主義や実存主義、シュールレアリズムなどを貪欲に吸収しながら、沖縄の既存の文学、思想、政治運動を批判し、新しい表現をめざして活動を続けた。その軌跡の全体像を見渡すことは、沖縄の「戦後」精神史を考えるうえで欠かすことができない。

(小説家)



戦後初期沖縄
解放運動資料集 DVD版

軍政下のたたかいを当時の運動資料、インタビュー、関連記事などにより総合的に明らかにした資料集。「米軍政下沖縄の人民党と社会運動」「沖縄の非合法共産党資料」「沖縄非合法共産党と奄美・日本」の全3巻を再版を望む多くの声にこたえてDVD版として復刊。

新たに編集・発行された『島ぐるみ闘争』はどう準備されたか』を別冊として付す。
編著 加藤哲郎・森宣雄・島山淳・国場幸太郎
DVD1枚・別冊1
定価 30,000円＋税

「島ぐるみ闘争」は
どう準備されたか

沖縄で1950年代にわき起こった「島ぐるみ闘争」は、どのようにして生み出されたのか、そして今日の超党派による基地反対運動は、その歴史経験をもとに受け継いでいるのか。人民党と非合法共産党の中心のメンバーだった故・国場幸太郎氏の足跡を中心に運動を担った人々の姿を振り返り、その歴史的意義を考える。

著 国場幸太郎・新崎盛暉・新川明・加藤哲郎・富山一郎・長元朝浩・林京子・由井晶子
A5判・並製・288頁
定価 1,800円＋税

琉球要覧 全14巻

琉球政府 発行（一九五四年版）一九七二年版
体裁 B5判・上製・総約6、500頁
揃定価 272,000円＋税（各巻分売可）
推薦 原洋之介

琉球統計年鑑 全14巻

琉球政府 発行（一九五五年版）一九七二年版
体裁 B5判・上製・総約6、800頁
揃定価 294,000円＋税（各巻分売可）
推薦 原洋之介

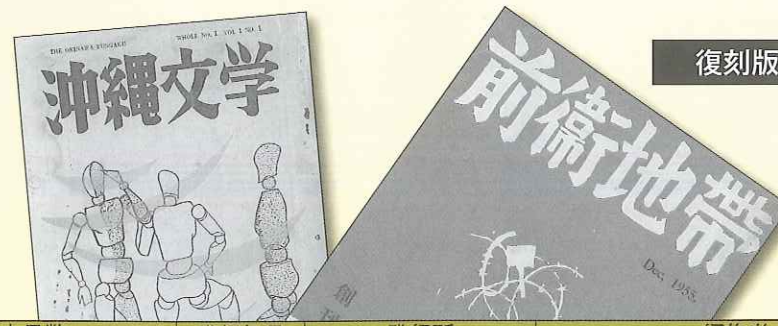
今日の琉球 全12巻・別冊1

琉球列島米国民政府 発行（一九五七年）一九七〇年
体裁 B5判・上製・総6、236頁
巻頭解説 大城立裕
別冊 解説・総目次・索引
揃定価 300,000円＋税
推薦 新崎盛暉・吉見俊哉

守礼の光 DVD版 全5枚・別冊1

琉球諸島米国民政府事務所 発行
（一九五九年）一九七二年
別冊 解説・総目次・索引
揃定価 175,000円＋税
推薦 大田昌秀・我部政明

復刻版『琉大文学』収録一覧



復刻版		原刊号数	発行年月	発行所	編集者・編集責任	頁数
第1回配本	第1巻	創刊号	1953年7月	琉大文芸クラブ	原龍次・新井暁	48
		第2号	1953年10月	琉大文芸クラブ	新井暁・原龍次	44
		第3号	1953年11月	琉大文芸クラブ	原龍次・川瀬信	50
		第4号	1954年1月	琉球大学文芸部	原龍次・川瀬信	50
		第5号	1954年2月	琉球大学文芸部	原龍次・川瀬信	50
		第6号	1954年7月	琉球大学文芸部	新井暁・川瀬信・松島弥須子	86
		第7号	1954年11月	琉球大学文芸部	新川明・池沢聡	82
		第8号	1955年2月	琉球大学文芸部	池沢聡・川瀬信	64
	第2巻	第9号	1955年7月	琉球大学文芸部	池沢聡・川瀬信	64
		第10号	1955年12月	琉球大学文芸部	嶺井正・河西門太	90
		第11号（第2巻第1号）	1956年3月	琉球大学文芸部	嶺井正・豊川善一	78
		第12号（第2巻第2号）	1957年4月	琉球大学文芸部	崎原盛秀・儀間進・伊礼孝	66
		第13号（第2巻第3号）	1957年10月	琉球大学文芸部	崎原盛秀・儀間進・伊礼孝	74
		第14号（第2巻第4号）	1957年12月	琉球大学文芸部	崎原盛秀・儀間進・伊礼孝	74
		第15号（第2巻第5号）	1958年5月	琉球大学文芸部	中里友豪・岡本定勝・清田政信・具志和子	64
		第16号（第2巻第6号）	1958年12月	琉球大学文芸部	中里友豪・岡本定勝・清田政信	84
	第3巻	第17号（第2巻第7号）	1959年7月	琉球大学文芸部	福地恒夫・東風平恵典・嘉手刈右好・松原伸彦	74
		第18号（第2巻第8号）	1959年12月	琉球大学文芸部	福地恒夫・東風平恵典・松原伸彦	76
		第19号（第2巻第9号）	1960年5月	琉球大学文芸部	松原伸彦・福地恒夫・東風平恵典・城原啓司	96
		第20号（第2巻第10号）	1960年11月	琉球大学文芸部	松原伸彦・城原啓司・ふくむらたけし・福地恒夫	82
第2回配本	第4巻	第21号（第3巻第1号）	1961年12月	琉球大学文芸部	譜久村毅・我那覇好成・当山寛彦	80
		第22号（第3巻第2号）	1962年6月	琉球大学文芸部	譜久村毅・松原伸彦・中里房江	56
		第23号（第3巻第3号）	1962年12月	琉球大学文芸部	田中真人・又吉真吉・譜久村毅	62
		第24号（第3巻第4号）	1963年11月	琉球大学文芸部	桑江良昭・又吉真吉	62
	第5巻	第25号（第3巻第5号）	1964年11月	琉球大学文芸部	又吉真吉・譜久村勝男	60
		第26号（第3巻第6号）	1966年2月	琉球大学文芸部	又吉真吉・田中真人	56
		第27号（第3巻第7号）	1966年12月	琉球大学文芸部	田中真人	76
		第28号（第3巻第8号）	1967年12月	琉球大学文芸部	田中真人	58
		第29号（第3巻第9号）	1969年5月	琉球大学文芸部	嘉手納昇・小谷良宣	36
		第30号（第3巻第10号）	1971年6月	琉球大学文芸部	松元憲雄・西銘郁和	76
		第31号（第4巻第1号）	1972年9月	琉球大学文芸部	松元憲雄・仲元盛郎	112
		第32号（第4巻第2号）	1974年8月	琉球大学文芸部	当間真栄・松元憲雄	44
		第33号（第4巻第3号）	1976年6月	琉球大学文芸部	当間真栄・奥原進	46
		第34号（第4巻第4号）	1978年12月	琉球大学文芸部	奥間宗一	54
	付録	前衛地帯 創刊号	1955年12月	新沖縄文学サークル	千田衛	40
		沖縄文学 創刊号	1956年6月	沖縄文学の会	太田良博	92
		沖縄文学 第1巻第2号	1957年11月	沖縄文学の会	太田良博	94
		サチュリコン 第1巻第2号	1957年7月	「サチュリコン」同人	志摩純・久米山充・秋冷太・湖島瑣乱	32

※未定 『サチュリコン』創刊号、第1巻第3号

① 午前 全5巻・別冊1

南風書房 発行／北川晃二編
一九四六年～一九四九年刊
体裁 A5判・上製・総2、104頁
別冊 解説・回想・総目次・索引
揃定価 90,000円＋税
推薦 大西巨人・紅野敏郎

② 文化展望

三帆書房 発行／大西巨人ほか編
一九四六年～一九四八年刊
体裁 B4判並製・B5判上製・
総666頁
別冊 解説・総目次・索引
揃定価 28,000円＋税
推薦 大西巨人・紅野敏郎

③ 鵬・ピオネ・藝術前衛

鵬同人社ほか 発行／岡田芳彦・出海溪也ほか編
一九四五年～一九五〇年刊
体裁 菊判・上製・総886頁
別冊 解説・総目次・索引
揃定価 35,000円＋税
推薦 大西巨人・紅野敏郎

④ サークル村

九州サークル研究会 発行
一九五八年～一九六一年刊
体裁 A5判・B5判・上製・
総1,946頁
別冊 解説・回想・総目次・索引
揃定価 65,000円＋税
推薦 有馬孝・池田浩士・上野千鶴子・
鶴見俊輔

⑤ 人民戦線

人民戦線社 発行／中西伊之助 主宰
一九四五年～一九四九年刊
体裁 A5判・上製・総1,700頁
別冊 解説・総目次・索引
揃定価 68,000円＋税
推薦 高柳俊男・西田勝

⑥ ギンダレ・カリオン

大阪朝鮮詩人集団機関誌
一九五三年～一九六三年刊
体裁 A5判・上製・総922頁
別冊 解説・鼎談・総目次・索引
揃定価 36,000円＋税
推薦 金時鐘・梁石日・鶴岡哲・米谷匡史

⑦ 東京南部サークル雑誌集成

一九五一年～一九六〇年刊
体裁 B5判・上製・総1,864頁
別冊 解説・解題・回想・総目次・索引
揃定価 68,000円＋税
推薦 小関智弘・坪井秀人・西川祐子・
ハリ・ハルトウニアン

⑧ 総合文化

真善美社 発行
一九四七年～一九四九年刊
体裁 A5判・上製・総1,318頁
別冊 解説・総目次・索引
揃定価 48,000円＋税
推薦 池田浩士・高良留美子・鶴見俊輔・
成田龍一

⑨ 新女性 全16巻・別冊1

新女性社 発行
一九五〇年～一九五六年刊
体裁 A5判・上製・総9、496頁
別冊 解説・総目次・索引＋DVD1枚
揃定価 370,000円＋税
推薦 犬丸義一・坪井秀人・橋本宏子・
藤目ゆき

⑩ 人民文学

人民文学社 発行
一九五〇年～一九五五年刊
体裁 A5判・上製・総6、750頁
別冊 解説・回想・総目次・
索引＋DVD1枚
揃定価 256,000円＋税
推薦 加納実紀代・島村輝・坪井秀人・
成田龍一

⑪ 学園評論

学園評論社 発行
一九五二年～一九五六年刊
体裁 A5判・上製・総4、230頁
別冊 解説・総目次・索引
揃定価 170,000円＋税
推薦 宇野田尚哉・西山伸